

埼玉女子短期大学 エアライン専門ゼミ・
宇和島真珠プロジェクトチーム

えくぼの絆

「真珠」の産地。日本はどこか、ご存知だろうか。シエラ80%を誇る愛媛県宇和島市こそ、日本の真珠の街なのである。この真珠を通して、地域活性化に取り組んだのが埼玉女子短期大学・エアライン専門ゼミのプロジェクトチームの学生たちだ。同学のエアライン・ホスピタリティコースでは、2年次の専門ゼミで「体験型授業」を導入。ANA総合研究所との産学連携を通じて、航空会社と地域が行うプロジェクトに参加し、地域活性のあり方を学んでいくのだ。このプロジェクトのリーダーを務めたのが、佐藤真実子さん。「専門ゼミの授業で宇和島の真珠について知りました。その中で、『えくぼ』と呼ばれる表面にデコボコがあるために廃棄されてしまう真珠があることを聞かされました。私たちは、『いまあるものを使って、新しいものを生み出す』というテーマを持っていたので、この『えくぼ』を活用して地域活性のお役に立てないかと考えました」。メンバーたちは動き出した。えくぼを使った新しいアクセサリを作り、販売する「アトリエチーム」、真珠のえくぼちゃんを主人公にした絵本を製作する「絵本チーム」、活動の記録・編集に取り組む「映像チーム」を発足。迷うことなく宇和島にも飛んだ。現地で真珠の養殖・加工・販売を行う会社の方からお話を聞き、真珠が生まれる工程も実際に体感した。「宇和島や真珠について深く知ること、『どこにかしたい!』という気持ちが強まりました。お互いのプランや内容にも意見を出し合いました。全てが知識も経験もゼロだったので、絵本作りも途中で全面的にやり直すなど、メンバーが本気でぶつかり合いましたね」。佐藤さんはリーダーとして、一人ではできないことをメンバーで共有し、的確に役割分担することで、迷いや不安を払拭していった。「絵本チームは完成した絵本を使って小学校で読み聞かせをし、アトリエチームの作ったえくぼのアクセサリもマルシェでの販売活動で完了できました。そして、この活動の成果を学園祭やプロジェクトの発表会などを通じてお話しさせていただくことで、『人に何かを伝えていくこと』の大切さも学ぶことができました」。授業や地域の枠を超え、プロジェクトメンバーが体験したことは、多くの方々への財産となり、そして、何より彼女たち自身の未来にも光を灯したに違いない。

(写真・文／西山俊哉)

プロジェクトリーダー



佐藤 真実子 さん

国際コミュニケーション学科
エアライン・ホスピタリティコース2年